

8月に入りました。昨年 延期されたオリンピックが とうとう開幕しました。どうなることかと多くの不安や心配があるのは否めませんが、連日の酷暑の中、様々な競技に 真剣に取り組みチャレンジしている選手達の勇姿は 素晴らしく、たくさんの感動や希望を与えられています。この瞬間を信じて 待ち望みながら 己と向き合い 懸命に頑張ってきた選手 1人1人の胸の内を想うと、こうして開催できたことは良かった！と言える祭典になってほしいと 心から祈ります。反面、コロナウィルスの感染状況は 驚くほどの速度で拡がり続けている日々、まだまだ不安な生活です。2日(月)からは、千葉県内も再び 緊急事態宣言下に加わりました。今回は 以前のような宣言に伴う通園自粛要請等もありませんが、熱中症と併せ 感染予防対策に より一層 気を引き締めて 努めたいと思います。皆様も どうかくれぐれも ご自愛ください。神様のお守りをお祈りしています。

さて、今 職員内では 先月末に起こった 福岡県の民間保育園での 痛ましいニュースについて 毎日 話をしています。5歳の園児とうまくんが 通園バスに 1日中 置き去りにされて亡くなられたという あまりにも信じ難いその事実は 私達保育者にとっても 大変 衝撃的でした。けれども 最初に 目にした時には ということなのか、すぐに理解ができませんでした。それほど、当たり前の子ども達 1人1人の “存在” に対する 意識の欠落によることだったからです。「ぼくはここにいるのに…」と暑くて苦しくて ずっと泣いていたことでしょう。それでも 先生が来てくれるのを信じて ひたすら待っていたに違いありません。置き去りにされたままの とうまくんが この時、何より悲しかったのは きっと “誰にも気がつかれなかったこと” だったと思います。保護者の方にとっても 大切な自分の子どもが、いなかったことにされていたことなど、言語道断です。これは 確実に、保育園側の責任が問われるものであり、園長の怠慢と無責任が 保育士達職員の意識の低さに繋がって引き起した あってはならない事件です。けれども 私が 心と不思議に感じたのは、とうまくんが5歳児だったことです。「仲間たちは？」と 思いました。とうまくんの クラスや 周りの園児達は？ということが気になりました。もし、バスの中で とうま君が眠ってしまったら、到着した時に起こすでしょう、起きなかったら 心配して先生に伝えるだろう 朝の遊びの時、友達の姿が見えなかったら「とうまくんは？」と聞くでしょう 皆が集まった時、とうまくんがお休みだと担任が言ったら「バスにいたよ」と言うのでは？…などと。5歳児なら 仲間としての意識が育っているはずです。保育者以上に 子ども達同士、互いの存在を大切にしようという心の絆が在るはずです。もしかしたら、とうまくんの保育園では 子ども達同士の人間関係が 普段からしっかりと構築されていなかったのかもしれない。1人1人の 存在価値が 感じられない園生活であったのかもしれない。私は、ここに、今回の原因の 1つといえるであろう “子どもの社会の闇” を感じました。それを作ったのは 誰でもない 大人達です。そのクラス運営・園運営にこそ 大きな問題があると 感じます。保育園は 子ども達にとって人生最初の社会生活であり生きる場です。名前を呼ばれない、存在を確認されない無関心な社会を つくってはなりません。マザーテレサは「愛の反対は 無関心です」と言っています。無関心は罪です。この事件を通し、私達保育者の責任と使命を 改めて痛感しています。そして、乳幼児期に育まれる互いを思い合う “思いやり” の心について、今まで以上に “人として” 祈りつつ 大切に丁寧に関わっていきたくて心を新たにしています。『あなたの隣人を あなた自身のように愛せよ。(マタイ 22:37)』(石田 記)